

7月19日 年間第 16 主日

憐れみに動かされて

マルコによる福音書 6 章 30 ~ 34 節

³⁰ さて、使徒たちはイエスのところに集まって来て、自分たちが行ったことや教えたことを残らず報告した。³¹ イエスは、「さあ、あなたがただけで人里離れた所へ行って、しばらく休むがよい」と言われた。出入りする人が多くて、食事をする暇もなかったからである。³² そこで、一同は舟に乗って、自分たちだけで人里離れた所へ行った。³³ ところが、多くの人々は彼らが出かけて行くのを見て、それと気づき、すべての町からそこへ一斉に駆けつけ、彼らより先に着いた。³⁴ イエスは舟から上がり、大勢の群衆を見て、飼い主のいない羊のような有様を深く憐れみ、いろいろと教え始められた。

他の朗読：エレミヤ 23:1 ~ 6 詩編 23:1 ~ 6 エフェソ 2:13 ~ 18

Lectio …読む

マルコはこの最初の宣教の興奮に長く浸ることはありません。しかし弟子たちは神が自分たちをお使いになったという興奮で沸いていたことでしょう。同時に彼らはとても疲れていたに違いありません。

マルコは、すぐにガリラヤと呼ばれるパレスチナ北部にイエスの宣教の舞台を移します。イエスの宣教は力強く、よく知られていました。しかしそれは弟子たちに疲労を回復する余裕を与えず、彼らの霊的な命を危険にさらすことになったのです。

賢明なリーダーであるイエスは、それがグループ全体に、霊的そして肉体的疲弊をもたらしていることに気がきます。それでイエスは弟子たちが他の人の要求から離れ、休んで元気を取り戻すように、別の土地に行くように計画したのです。彼らはガリラヤ湖を渡り、静かな場所へと出発しました。ガリラヤ湖は比較的大きく、最北部で幅が狭くなっている湖です。

しかし現地の人々は、イエスが何を考えているかを察知し、走って行って彼らより先に着いて待っていたのです！ 船から上がると、イエスは待っている群衆を見て、彼らと彼らの必要を無視することができなくなりました。イエスは人々がかくも熱心にイエスを求めているのを目の当たりにして、「深く憐れんだ」のです (34 節)。

イエスは「飼い主のいない羊のような」人々に自分自身を捧げます。イエスと弟子に必要な休日、別の日に延期されたのでした！

Meditatio …黙想する

仕事や神への奉仕を求められることと、休みの必要としていることのバランスを、あなたはどのようにとっていますか。休みのとき、あなたは祈りや聖書を読んで神と過ごす時間を増やしますか、それとも減らしますか。

人々が助けを求め、あなたの早急な配慮を願う時、その重要性をどのようにあなたは識別しますか。他の人々の必要のためにあなたの計画を変えなくてはならなくなったとき、あなたはどのように感じますか。私たちはイエスの態度から何を学ぶことが出来ますか。

Oratio …祈る

詩編 23 編は聖書の中でもっとも愛されている箇所のひとつです。私たちはもはや「飼い主のいな

い羊」ではないことを、思い起こさせてくれます。これらの大切な真理を、ゆっくり、声を出して読んでみましょう。言葉を味わって、神があなたの生活と今おかれている状況について語りかけてくれることに耳を傾けましょう。

Contemplatio …観想する

今日の朗読箇所は、指導者の意義と責任について明らかにしてくれています。エレミヤ 23 章 1～6 節は、自分の責任を果たさない者たちを、神はどうするのかについて描写しています。5、6 節はイエスについての預言です。イエスは神的なリーダーシップを再興し、「私たちの救いの主」を呼ばれます。

エフェソ 2 章 13～18 節は、この救いの意味について説明します。十字架上の死を通して、イエスは神と人とを隔てる壁を打ち壊したのです。イエスは私たちと神との間、ユダヤ人と異邦人との間に平和をもたらしたのです。